

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2895000335		
法人名	医療法人社団医啓会		
事業所名	グループホームまごころ		
所在地	神戸市北区有野町唐櫃24-5		
自己評価作成日	令和5年11月18日	評価結果市町村受理日	令和6年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	コミュニティー・サポートセンター神戸(CS神戸)		
所在地	神戸市東灘区住吉東町5-2-2 ビュータワー住吉館104		
訪問調査日	令和5年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

まわりを山に囲まれた平静な住宅地に立地し、利用者様は静かで穏やかな環境でのんびりと生活されている。法人の所有する中庭に雨以外の日は殆ど出掛け、陽の光を浴び、気分転換をして頂いている。職員は個々の利用者様の要望や依頼に傾聴し、可能な限り実現できるよう努めており、様々なレクリエーションや脳トレーニング、製作活動と多岐にわたる楽しみを提供し、共に楽しんでいる。より利用者様に反映できる運営を継続していきたいと考えている。ご家族様施設により、施設にはいつからとどんどん可愛くなり好きになった、偏食がなくなった等のお褒めの言葉も頂き、より一層の支援に努めたいと思います。医療面では同法人のクリニックと連絡を密にし情報共有を行い利用者様の健康に留意している。今後、様々な苦情や問題点に真摯に向き合い、より過ごしやすい施設を目指します。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営母体が長年地域医療に携わってきた医療法人であり、事業所は隣地に併設の有床診療所と連携して、入居者の日々の健康管理と介護に取り組んでおり、利用者には安心感がある。理事長が地域医療を通じていかに心身ともに健康に過ごしてもらうか、日頃感じるところを「日中体を動かして夜ぐっすり」という事業所理念としている。看取りケアにも取り組んでおり、開設から7年で3人の方が事業所で最期を迎えられた。敷地にゆとりがあり、併設のサービス付き高齢者向け住宅との間にベンチを備えた広めの中庭を整備して、入居者は天気の良い日には散歩やお茶会をしたり、花や植栽を眺めて楽しんでいる。毎月発行する「まごころ通信」を送る際には入居者のスナップ写真を同封している。今は面会が制限されている為、生活の様子を窺うことができると家族に喜ばれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します(事業所記入)

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者のおもいや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

グルーグループホームまごころ

評価機関:CS神戸

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「日中体を動かして夜ぐっすり」を理念とし、職員間で共有しながら、ケアプランを通し、充実した支援を実施している。	運営母体の医療法人が地元で培った知見を活かして、設立時に「日中体を動かして夜ぐっすり」との理念を作り、事務所内に掲示し共有している。理念に沿って昼間は入居者各人に合わせて活動出来ることを提供し、夜は安心して眠れるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人である医啓会が日頃より地域と交流を深めており、地域の情報収集やコミュニケーションを図っており、地域との交流について色々と提案を頂いている。現在コロナ禍のため、実施できていないが、通信の発行や散歩時に挨拶等行っている。	母体法人と地域との付き合いは長く、関係も良好である。開設から2年余りの間は、地域のふれあい喫茶に入居者全員で訪れたり、併設施設でのボランティアの活動に参加するなど地域との付き合いが進んでいたが、コロナ禍で交流活動は休止している。	開設後地域との付き合いを始めて2年余りで、コロナ禍の為に交流活動を休止せざるを得ず残念でした。感染の収束に伴い、今後は交流を再開していかれることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人である医啓会の考え方として地域に根ざした介護支援を充実させるため、サービス付き高齢者向け住宅及び、グループホームの開設に至った。地域の方の状況改善を目的としている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃よりご家族様に運営に関して意見を求めており、運営推進会議ではあんしんすこやかセンターの方や他グループホームの方の意見を中心にご利用者ご利用者ご家族からの要望をお聞きしながら、運営に活かしている。※コロナ禍のため、運営推進会議が中止	運営推進会議は入居者・家族のほか民生委員、近隣のグループホーム、地域包括支援センターなど、出席が必要なメンバーを揃えて隔月開催していたが、コロナ禍の発生により中止している。夏に開催予定であったが感染拡大のため見送っている。	運営推進会議はコロナ禍となって中止し、書面による活動報告や意見聴取も出来ていません。感染収束に伴いメンバーとの繋がりを再構築し、会議を再開されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域との関係や市町村との連携をはかるため、日頃より連携を取って頂き、ご指導をお願いしている。※地元の自治会、民生委員	市役所とは運営上の質問や事故報告等で適宜連絡を取っている。運営推進会議のメンバーである地域包括支援センターとは、会議が中止中の為、空室の問合せ等は電話で行っている。北神ケアネット施設連絡会に来年副幹事として参加予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に数回身体拘束の研修を実施し、日常的なケアの中で身体拘束に繋がる内容があれば、担当者を中心に検討を重ね、拘束しないケアを実践している。玄関に関しては近隣の環境を加味し、事故に繋がる事のないよう施錠を実施していますが、利用者が外に出たいと申し出があれば職員付き添いでの外出を行っている。	年に2回研修を行い、身体拘束適正化委員会を毎月開催している。安全の為ユニット出入口と玄関は施錠しているが、外出希望の方が居れば職員が付添って中庭を散歩している。センサーマットを利用している方が1人いるが、毎月必要性を検証している。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修を年に数回実施し、高齢者虐待に対して他の職員とじっくり話合う機会を設けている。又、どんな内容が虐待にあたるのかを担当職員を中心に利用者お一人お一人の支援に支障のないよう綿密に話合われている。	身体拘束と併せた研修を年2回行い、虐待防止委員会を毎月開催している。虐待についての短いグループワークも毎月行っている。不適切なケアがあれば個別に指導したり全体での共有もしている。職員の心の健康に配慮し、面談を行い話をよく聞いている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を年に1回実施しているが、管理者、外部講師が実施している。ご利用者に後見制度を利用されている方がおられ、担当司法書士の方に支援の内容等を教えて頂き、今後のご利用に役立てている。	入居前から成年後見制度を利用している方が昨年度の4人から2人になっている。後見人は同じ1人の司法書士である。権利擁護の制度に関する研修をコンサルタントや職員が講師となって毎年行なっている。相談にも対応できるよう資料も常備している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時から入居前までに施設の内容をご理解頂くため、十分な説明を実施している。入居前までの不明な点や不安な内容があれば、いつでも対応できる体制はある。入居直前の契約書を交わす時点で十分な説明を行い、ご理解を頂けるよう努めている。	見学時など事前の面談でも説明を行った上で、契約時には文書の重要な箇所を読みあげるなどして1時間以上かけ説明している。常時医療措置が必要となった場合を除き看取りケアも行うことや、料金等金銭的なことについても納得頂き、契約をしている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で出された意見やご要望を受け止め、可能な限り実現できるよう取り組む体制はある。又、家族会議を開き、忌憚ない意見を頂ける機会を設け、ご利用者とご家族中心の対応を心掛けたいと思っている。現在コロナ禍であるためお電話にてご家族様とコミュニケーションをとっている。	コロナ禍のため、家族の意見や要望は対面ではなく電話で伺うことが多い。体調が低下した方に家族から差入れの要望があり、現在の好物や食べられる物を伝えて持参頂き、入居者が元気を取戻された事例があった。今後は家族会を開催したいと考えている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のミーティングに事務長が参加され、ミーティングの様子や内容を確認され、意見を頂いている。また、職員から出された意見を持ち帰っていただき、速やかに対応頂いている。また、管理者による職員個別面談を予定中である。	月に1回は休みの職員も参加して全体ミーティングとそれに続くフロア会議を行っている。職員の意見はこのミーティングや広報・防災・接遇等の各種委員会で、入居者の支援や行事の企画などに関して自由に出席され、事業所運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は施設長を通して各々の要望を伝えることができおり、提案された意見は時間をかけて検討頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に必要であると思われた研修や希望の出た研修については就業時間に参加することが認められており、希望のある研修への参加は可能である。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や地域で行われている施設会議へ参加し、地域や施設間での情報交換を密に行い、サービスの質の向上に役立っている。※コロナ禍のため、中止		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時にご利用者の今までの生活環境や生活状況を聞き取り、グループホームでの生活を今までの生活とより近い環境となるよう支援する体制がある。又、日常生活での何気ない言葉や仕草で、本来希望されている生活を確保頂くため、関係づくりに留意している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時にお聞かせいただいたご家族の不安や要望に耳を傾け、実現可能となるよう努める体制はある。又、入所後に起こる様々な問題についてはご家族と連携を図り、ご利用者により良い環境を提供できるよう努めたいと考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族からのご要望をお聞きし、入所前に利用されていた施設等からの情報等を参考に、ご入所希望者の状況把握を行い、適切な支援とサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日常生活において入所者様が希望される様々なご意見を真摯に受け止め、ご家族の替りであると自覚し、暮らしを共にする者としての支援に努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設へ訪問されるご家族は多く、その都度、担当職員又は職員とのコミュニケーションを図っており、出されたご意見等は職員間で話し合い、ご入居者様を支えるための原動力として活かしている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設への訪問に関しては制限を持たず、外出・外泊も自由に行っていた。 (現在コロナ禍のため実施できず。) 認知症の重度の方もおられる関係で、飴などのおやつや日持ちのしないものを含め食べ物類を居室に置いておかれる事のないようお願いしている。	コロナ禍の前は外出・外泊も自由に行なえて、家族と馴染みの美容院などに行く方もいたが、感染防止の為今は全て控えている。面会も完全中止の後、IT機器を使ったりリモート面会や窓越し面会に制限していたが、今年度10月から玄関ホールで再開した。	

自己 三者	項目	自己評価	第三者評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	施設ではご利用者様を中心にレクリエーションを通じてのコミュニケーションづくりに努めており、利用者様もお部屋から出てこられフロアで過ごされることが多い。トラブルが起きそうなことも前もっての情報収集により揉められる前に対応するよう心掛けている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方についてはご家族様より近況を伝えて頂き、職員間で情報を共有している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	殆どの利用者様は自身の要望を伝えることはしないが自宅へ戻りたいと思われているご利用者様の希望を聞くことは多い。又、認知症の進行されている利用者様は思いを具体的に伝えられないため、その表情や行動から思いを推測し、出来る限りの支援を実施したいと思っている。	入居前に、本人と家族以外に、在宅時のケアマネジャーや関係者から生活への思いや意向を聞いている。入居後は日々の生活の中で聞いた話を基に、皆で話し合い汲み取っている。毎日のお茶やレクリエーションの参加等、何事にも本人の意向を確認している。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談や他の事業所からの情報で施設入所前の状態は確認できており、不安なく日常生活が送れるよう情報を基に支援している。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は利用者様と共に日常生活を送るうえで様子観察を徹底し、そのご様子を理解し支援している。又、夫々の利用者様に担当者がおり、支援に支障があれば問題点として上げ、他の職員と問題解決に取り組んでいる。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングにより解決しない課題は再度全体で話し合い、出された提案を軸にご利用者本来の要望に沿った支援計画を作成している。	介護計画書は変化がなければ半年ごとに見直している。生活の記録や職員の意見を参考に本人、家族や関係者から意見を聞き、できる事を盛り込んだ個別性のある計画書となっている。家族には計画書作成の流れを説明し理解を得ている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録を時間毎に記載し、引継ぎ記録を基に職員間で日々の利用者の状況を共有している。又、状況の変化により出された提案を基に介護計画の作成に役立てている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の嗜好で飲物を提供できるようご家族に依頼したり、体重減少されている方に補助食品をご家族に依頼し対応している。		

自己 三者	項目	自己評価	第三者評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のふれあい喫茶への参加を実施した。また、地域の行事や催し物の情報を收拾し、参加することができるよう支援していきたい。※コロナ禍につき中止		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同法人の主治医の訪問が定期的であり、利用者様の日常的な健康管理が実施されている。また、緊急時に訪問看護師へ連絡し、その状況により即座の対応が行われ、職員への的確な指示も受けている。	隣接する同法人の診療所が、かかりつけ医になっている。2週間に1度往診があり看護師が同行している。変化があれば看護師に相談している。歯科医や歯科衛生士の訪問が週に1回あり、他科の受診は家族が付き添っている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	平日は同法人の看護師により健康管理が行われており、状態の変化に応じて対応している。又、平日以外の緊急時には昼夜を問わず、医師による対応が実施されている。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急時には同法人のクリニックに連絡し、素早い対応を行っていただけており、相互の情報交換も実施されている。又、クリニックで対応ができない利用者様の状況により近隣の病院への受け入れもクリニックの協力によりスムーズに行っている。病院への情報交換や早期退院に向けての連携も積極的に行っている。	同法人の診療所を受診し、必要時には診療所の協力のもと入院先の手続きを取っている。他病院からの退院時も一旦診療所に戻り、面会をして状態を確認している。情報交換を行い、排泄方法や福祉用具の必要性を検討してスムーズな退院に繋げている。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応方法をご家族より紙面にて聞き取り、支援する準備は出来ているが、実際に重度化や終末期となった場合は再度確認し、ご家族との連携を図り対応する用意はある。	状態の変化があればその都度家族に説明している。終末期になればかかりつけ医の説明の後、家族の意向を再確認している。看取りになれば何が出来るかを職員で話し合い、看取り後は振り返りを行っている。入居者の中にはお見送りを一緒にされる方もいる。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応方法は職員全員が周知しており、入所時の研修により初期対応の方法は理解出来ている。また、夜間の急変時には同法人の医療が24時間対応する準備は出来ている。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時は同法人のクリニック及びサービス付き高齢者向け住宅と共に連携する。また、研修及び訓練において利用者様へも周知している。年2回実施。	年2回避難訓練を行い避難経路を確認している。消防署とは監査、点検、訓練の報告等をして連携をとっている。2階からの避難方法や、地震時の対応なども検討している。隣接するホテル従業員の寮には協力の依頼をしている。3日分の備蓄品を用意している。	今年度中に事業継続計画を立てる予定があります。災害時には交通、通信網が寸断されることもあります。それを考慮して職員の招集方法も含めて検討されてはいかがですか。

自己 三者	項目	自己評価	第三者評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者様の尊厳を重視しプライバシーを損ねない対応を日常的に理解し、実践している。又、ご利用者により個別に様々な対応を希望される場合はご家族やご本人の意向を確認し、そのご要望に沿った対応を実施している。	全体会議やフロアミーティングで業務を振り返っている。入室時は本人が室外に居ても了解を得、声かけの時には原則苗字で呼ぶ。食事時のエプロンを使用する場合は、食べこぼしや着替えが負担になっていないか、本人の気持ちを汲んで決めている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に様々な場面において利用者様の意向を確認し、自己決定して頂ける様務めているが、入浴や排泄において身体的に不利な状況を生み出す場合に説得することは稀にある。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常的にレクリエーションや製作活動を行っているが、その時々により意向を確認しながら共に行うよう心掛けている。又、自己決定が困難な利用者様においてはその思いを言動や態度からくみ取り対応している。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等についてはご家族様からの持ち込みをお願いしているが、身だしなみについてはその都度職員により支援している。又、レクリエーション活動の一環として、マッサージやお化粧方法を取り入れ、身だしなみに活かして頂いている。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房で作られた副食を職員と利用者が一緒に盛り付けている。汁物と主食やお茶はお手伝いを頂きながら施設で作っている。又、職員と共に話に花を咲かせたり、楽しく食事の時間を過ごしている。後片付けも利用者様にお手伝い頂き、共に行っている。	隣接のサービス付き高齢者向け住宅の厨房で調理された料理を運んでいる。検食で味や硬さ、メニューの希望を伝えることができている。2か月に1度一緒に調理するおやつレクリエーションを楽しんでいる。時には椅子を中庭に持ち出しお茶会を楽しむ。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	厨房の管理栄養士が作ったメニューを基に作られた食事により栄養のバランスは確保されている。水分量が少ない利用者様には出来るだけ好きな飲み物を飲んで頂ける様工夫を凝らし提供している。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後と毎食後に口腔ケアをお願いしている。自力で実施することが困難な利用者様には磨き残しを支援している。夕食後は義歯等がある方はお預かり後、洗浄液につけ起床時にお渡ししている。又、毎週歯科の訪問による口腔ケアが実施され、口腔内の清潔を図っている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄の状況により、排泄パターンを理解し、個別に対応している。又、認知症の症状が進行している利用者にはその行動パターンを把握し、失敗のない排泄習慣を提供できるよう努めている。	排泄パターンを把握し、適切に誘導することでほぼトイレでの排泄ができている。おむつを使用している方2名もトイレでの排泄を心掛けている。頻回に訴える方には医師にも相談しているが、その都度対応する事で安心し、落ち着かされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日課の中に体操を入れ、運動の習慣を身に付けて頂き、水分摂取量については最低1リットルの飲水を確保できるよう心掛けている。又、既往歴が排泄に影響を与えている方については担当医と連携し、投薬の指示を頂き対応している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回の入浴の日を大まかに決めていますが、利用者様の体調や気分により柔軟に対応している。又、立位が不安定な利用者様には二人介助にでの安定した支援を提供し、より安全に入浴をして頂いている。	夜間よく眠れるように入浴は午後に行っている。入浴をしない日には手浴、足浴を行う。入浴の好きな方には回数を増やし、入浴を好まない方には清拭やドライシャンプーでの洗髪をしている。湯に浸かる温度、時間は個人の好みに合わせて楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯で居室に戻られるまではご自分のペースで過ごしていただき、就寝時間の取り決めは特に行っていない。居室の温度にも気を配り、適温を保つよう努めている。又、フロア以外でもゆったりと過ごせる空間づくりを行い、リラクセスして頂ける様工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人お一人の状況に合わせた対応を実施している。服薬が困難な利用者様には医師の了解を得て、他の飲み物に入れる等の工夫をし、出来るだけ服薬出来るよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	夫々の利用者様の担当者により、その方の日頃の様子や要望よりプランを検討し、他の職員の協力を得ながら支援している。又、日常生活の中で利用者様に行っていたくことが可能であると思われる洗い物や洗濯たたみ等の家事等も気分転換となっている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事予定を立て、季節に応じた外出を計画し、参加頂いている。又、ご家族の協力により外出や外泊も希望により行っている。その他、地域のふれあい喫茶や花見や外食(回転ずし)への外出支援が実施でき利用者様も喜ばれている。※コロナ禍のため、中止している	天気の良い日には中庭を散策し、草花や山の風景を楽しんでいる。すぐ近くに川があり、土手の桜並木で花見を楽しめる。外出制限のある今は、パンの移動販売が入居者の楽しみになっている。早く以前のように神社やふれあい喫茶に行ける日を待ち望んでいる。	

自己 三者	項目	自己評価	第三者評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常的にお金を使う機会はないが、月に1回移動パン屋がこられ、当日のおやつを利用者様お一人お一人が選ばれ、購入する機会を設けている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	殆どの方が、電話をかけられる機会はないが、携帯電話を持たれている利用者もおられ、ご家族と会話される機会を設けておられる。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアは日当たりの良い過ごしやすい環境にあり、殆どの利用者様は日中をフロアで過ごされることが多い。又、フロア以外でも一人でゆっくり過ごす空間も設け、ご利用頂いている。	リビングは中庭に面して大きな窓になっており開放的である。広い部屋にソファ2つとテレビが置かれ、窓からの景色を眺めたりしてゆったりと過ごしている。今は大きなクリスマスツリーを置き、壁には職員と合作した貼り絵などの作品が飾られている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様は思い思いの場所で気の合った方と会話をしながら過ごされており、フロア以外でもゆっくりできる空間づくりを工夫し、利用頂いている。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	夫々の居室は入所時に利用者様が以前に住まわれていた環境に近い状況となるよう、馴染みの家具や使い慣れた物をお持ち込み頂くようお願いしており、ご協力いただいている。又、利用者様がご自分の部屋である事を理解頂くため、居室前にお名前やご自身で作られたリースを設置している。	ロッカーが設えてあり、エアコン、ベッド、寝具が用意されている。大きな家具は置かず整理ケースの上に写真や作品を並べ、使い慣れた趣のある小箱を置いている。ぬいぐるみを一杯置き一緒に寝ている方もいて、思い思いの居心地良い部屋にしている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	近隣の交通事情で玄関は施錠をしているが、利用者様に自室やトイレの位置を理解頂けるよう目印をし、混乱がないよう努めている。		